

看護系大学卒業生のキャリアとキャリアアップに対する考え

森 淳恵¹⁾末弘 理恵¹⁾荒川 満枝¹⁾井手 知恵子¹⁾平井 和明¹⁾岩本 久実²⁾

1)医学部看護学科 2)前医学部看護学科

[要旨]

本研究の目的は、看護系大学卒業生のキャリアとキャリアアップに対する考えを明らかにすることである。A大学卒業生を対象に質問紙調査を実施し、回答が得られた238名(回収率29.3%)について分析した。その結果、現在のキャリアに関しては、看護師125名(52.5%)、保健師53名(22.3%)、看護教員10名(4.2%)、助産師5名(2.1%)、その他の職・無職45名(18.9%)という分布がみられた。キャリアアップに対する考えは238名中191名(80.3%)から得られ、現在の職種ごとに分析したところ、現状継続が大半を占める一方で、看護師および保健師の資格を活かして自身のライフスタイルに合わせた就業や進学への意識があげられた。

[キーワード] 看護系大学卒業生 キャリア キャリアアップ

I. はじめに

本邦ではこれまで大学および短大卒業後の看護や医療をはじめとする社会貢献や個別のキャリア開発志向などの観点から、卒業生に対しての支援の在り方^{1),2)}や、大学自体の在り方^{3),4)}、教育のための基礎資料提示⁵⁾、新卒看護師の定着支援⁶⁾といった指向で、看護系大学や短大の卒業生の動向調査が報告されている。その中で、10年以上の経過をもつ看護学士課程について、卒業生のキャリアを扱った調査は数少ない。

A大学の看護系学科においては、平成6年の開学当初より「人間への洞察力と豊かな人間性を養い、将来、臨床、教育、管理および研究分野においてリーダーシップを発揮し得る能力を備えた人材育成」をその教育方針としてかけ、平成22年度には創立17周年を迎え約800名の卒業生を輩出してきた。卒業生の多くは、看護職として、あるいは社会人として、社会に貢献し、活躍していると思われるが、その動向の詳細を把握する機会はなかった。しかし、今後学士課程における看護学教育を受けた人材育成の成果を評価し、看護専門職としてのキャリア開発に対する大学側の役割を検討する必要があると考えた。

そこで今回は、将来の看護学教育への貢献を意図して看護学基礎教育を受けた看護系大学卒業生のキャリアとキャリアアップに対する考えを調査した。

II. 目的

看護学基礎教育を受けた看護系大学卒業生のキャリアとキャリアアップに対する考えを明らかにする。

Ⅲ．方法

1. 対象

A 大学を平成 10 年 3 月～平成 23 年 3 月に卒業した卒業生 877 名のなかで、郵送可能であった 811 名のうち返送のあった 238 名(回収率 29.3%)を分析対象とした。

2. 方法

郵送による自己記入式質問紙調査を行った。調査項目は対象者の背景（年齢、性別、結婚の有無、学歴）、就学・就業状況（現在の就学・就業状況、就業年数）と今後のキャリアアップについての考え方を自由記述により尋ねた。

分析については、量的変数は SPSS ver.19 を用いて記述統計、推計統計を行った。自由記述は現在の職種ごとに今後の働き方についての意向を読み取り、その理由、キャリアアップについての考えを分類・整理した。

Ⅳ．倫理的配慮

調査対象者へは、調査・研究の趣旨、個人情報保護、結果の公表方法、参加は自由意思によること等を質問紙票とともに文書を同封し、回収をもって同意確認とした。本調査は所属機関の倫理委員会の承認を得て実施した。

Ⅴ．結果

1. 対象の背景と就学・就業状況

対象者の背景は、全体の年齢の平均値は 30.9 歳、結婚の有無に関しては、既婚者は 125 名（52.7%）、最終学歴に関しては、修士・博士の者は 21 名（8.8%）、現在の職業継続年数は 4.5 年であった。現在の就学・就業状況に関しては、看護師 125 名（52.5%）、保健師 53 名（22.3%）、看護教員 10 名（4.2%）、助産師 5 名（2.1%）、その他の職・無職 45 名（18.9%）という分布がみられた。（図 1）現在の職種ごとの対象者の背景については表 1 に示す。年齢、結婚、最終学歴、現在の職場の継続年数と現在の職種の違いには関連がみられた。

大学卒業後の就業経験は、現在看護師として就業している者の 114 名（91.2%）が看護師のみの経験である一方、保健師として就業している者の 28 名（52.8%）、看護教員として就業している者の 9 名（90%）が看護師の経験をしていた。

2. 今後のキャリアアップに対する考え（表 2）

対象者 238 名中 191 名（80.3%）が今後の働き方についての意向を示し、自由記述でその理由、キャリアアップに対する考えを記述していた。データ数は 1 名＝1 データとして、合計 191 データであった。

1) 現在、看護師として就業している者の考え：現在、看護師として就業している 125 名中 99 名が記述しており、＜看護師として働きたい＞63 データ、＜進学したい＞14 データ、＜保健師として働きたい＞12 データ、＜その他＞10 データの意向があった。

＜看護師として働きたい＞意向の者は【専門性をさらに高めたい】【今後も看護師として働きたい】【看護師として働くが、キャリアアップについては悩んでいる】【個人

の制約により、キャリアアップが困難な状況がある】等と考えていた。＜進学したい＞意向の者は【専門職として働きたい】【管理職として働き続けるため】【知識の限界を感じるため】【進学したいが悩んでいる】等、＜保健師として働きたい＞者は【保健師の仕事に興味・関心がある】【家庭・育児・生活との兼ね合いを考えて】等と考えていた。＜その他＞の者は【個人の制約により、キャリアアップについて考えていない】等であった。

2) 現在、保健師として就業している者の考え：現在、保健師として就業している 53 名中 40 名が記述しており、＜保健師として働きたい＞32 データ、＜進学したい＞8 データの意向があった。

＜保健師として働きたい＞意向の者は【今後も保健師として働きたい】【専門性をさらに高めたい】【保健師として昇進を目指している】等、＜進学したい＞意向の者は【専門分野を追求したい】【スキルアップするため】【助産師の資格を取得したい】等と考えていた。

3) 現在、看護教員として就業している者の考え：現在、看護教員として就業している 10 名中 8 名が記述しており、＜進学したい＞6 データ、＜看護教員として働きたい＞1 データ、＜その他＞1 データという意向であった。

＜進学したい＞意向の者は【専門分野を追求したい】【教員としての能力を向上させたい】等、＜看護教員として働きたい＞者は【看護教員としてまずは目の前のことを遂行していく】と考えていた。＜その他＞の者は【具体的に考えていない】というものであった。

4) 現在、助産師として就業している者の考え：現在、助産師として就業している 5 名全員が記述しており、＜助産師として働きたい＞4 データ、＜その他＞1 データの意向があった。

＜助産師として働きたい＞意向の者は【職場を変更して助産師として働きたい】等、＜その他＞の者は【具体的に考えていない】という考えであった。

5) 現在、その他の職・無職の者の考え：現在、その他の職・無職の者 45 名中 39 名が記述しており、＜保健師として働きたい＞7 データ、＜進学したい＞4 データ、＜看護師として働きたい＞2 データに対して、＜今は考えていない＞26 データの意向があった。

＜保健師として働きたい＞には【保健師として働くことに興味・関心がある】【看護師業務は身体的影響がある】等、＜進学したい＞には【研究に取り組みたい】【助産師の資格を取得したい】等があり、＜看護師として働きたい＞には【看護師としての資格・経験を活かして働きたい】があった。＜今は考えてはいない＞には【キャリアアップをこれから考える】【家庭・育児を優先したい】【病気のため考えられない】等があった。

VI. 考察

本調査では、回答者の半数以上が看護師として働いており、保健師、助産師なども含めると 8 割が看護専門職として就業していた。この割合は、他の報告^{2), 4)}と概ね同程度であった。さらに 8 割以上がキャリアアップについて何らかの考えを有していて、専門職業人として成長することを意識し、キャリアアップの重要性を認識した集団であることが推測された。ただし、質問紙の回収率は約 3 割であったため、回答者が本研究の質問内容に対して高い意識を持った方に偏った可能性は否定できない。

表 2 に示したように、現在の職業を継続していきたいと考える者が看護師、保健師、助産師において大半を占める一方で、進学や、看護師から保健師へ職種を変更しての就業、その他の職・無職の者が看護師または保健師として働きたいという考えを持っていた。また、現在保健師として就業している 53 名中 28 名（52.8%）が看護師経験者であったことから、看護系大学においていわゆる統合カリキュラムのもと看護師、保健師の国家資格を大学卒業時に取得していることの影響は大きいと考える。学士課程における看護学教育は卒業生のキャリアアップの幅を広げ、看護師、保健師の特色を捉え、ライフスタイルに応じたキャリアアップを考えることにつながっていると推測された。

進学したい意向の者に焦点をあてると、看護師はその理由として、専門看護師資格取得等による専門性の追究をあげ、資格取得を基盤に考える傾向が見られた。進学したいと考える看護師の中には、進学の意味はあるものの「悩んでいる」とする意見があり、研究の困難さを予測していることが進学に対する不安につながっていた。また、進学の困難さを考慮して看護師として働きたいという意向も見られ、進学を意識しつつも、保健師と比べて夜間勤務や週末勤務等があるなど、就学しながらの労働環境が整っていないことが大きな要因となっている事が考えられた。一方、保健師は助産師資格の取得や仕事で活用できる知識の取得とともに、学問への純粋な志をあげていた。

キャリアアップに対するイメージという側面から見ると、看護師の中には勤務や子育てなど現状維持に精一杯、または興味のある分野に遭遇していない等のイメージが持てないものや、進学することのみをキャリアアップととらえるような偏ったイメージの者もいた。

回収率が約 3 割であることより、回答者に偏りがあった可能性は否定できないとしても、いずれも現在精一杯働きながら、キャリアアップに関する考えを真剣に回答した様子が伺えた。今回の調査は、回答者にとっても、また返信をしなかった卒業生についても、彼ら自身のキャリアを再考する契機となったと考えられる。

既報^{1),2)}では、キャリアアップに関する大学側に求められている支援として、「専門分野に関する情報提供」や「図書館の開放」などが結論付けられていた。今回の調査では、看護系大学卒業生のキャリアアップに関して看護系大学は、大学院修士課程での教育では専門看護師資格取得や専門分野が学べるコースの設置、仕事との両立が出来るカリキュラム構築や環境作りによって、進学の意味の支援が可能であると示唆された。また、キャリアのイメージが持てるよう同窓生が互いの動向を共有したり、キャリアモデルを提示したり、キャリアに関して気軽に相談できる機会や場所の提供などは、大学として有効な支援になると考えられた。

VII. 結論

A 大学の看護系学科の卒業生 811 名に、現在の就業状況やキャリア等に関して自由記述を含む質問紙調査を実施し、返送のあった 238 名（回収率 29.3%）を分析対象とした結果、

1. 対象者は看護師 52.5%、保健師 22.3%、看護教員 4.2%、助産師 2.1%、その他 3.4%、その他の職・無職 18.9%という分布で、8 割以上が就業中で、うちほとんどが看護専門職として働いていた。
2. キャリアに関しての質問に回答した者は 238 名中 191 名（80.3%）で、キャリアアッ

プに対する考えを自由記述していた。

3. 学士課程における看護学教育を受けた看護系大学卒業生のキャリアアップとして現状継続が大半を占める一方で、看護師および保健師の資格を活かして自身のライフスタイルに合わせた就業や進学への意識があげられた。
4. 進学したいと考える看護師は、専門看護師資格取得等の資格取得を基盤に考える傾向が見られ、保健師は助産師資格や知識の取得とともに、学問への純粋な志もあがっていた。
5. 看護師では、進学やキャリアアップを意識しつつも、現在の就業や子育てに精一杯で、夜間勤務や週末勤務等があるなど、就学しながらの労働環境が整っていないことから、明確な回答ができない状況が見られた。

引用文献

- 1) 飯吉令枝・小林美代子・斎藤智子他：新潟県立看護短期大学卒業生・修了生の動向，新潟県立看護短期大学紀要，10，19-26，2004.
- 2) 青木実枝・後藤順子・佐藤幸子他：山形県立保健医療短期大学看護学科卒業生の動向（第2報）－就業上の困りごと，誇りに思うことを中心に－，山形保健医療研究，7，57-66，2004.
- 3) 舟根妃都美・播本雅津子・結城佳子他：市立名寄短期大学看護学科卒業生の動向調査からの検討，市立名寄短期大学紀要，41，11-23，2008.
- 4) 弘前大学医療技術短期大学部教育研究プロジェクト研究グループ：弘前大学医療技術短期大学部教育研究プロジェクト報告書 本学看護学科卒業生の追跡調査－20年間の現状－，1999.
- 5) 片岡三佳・流郷千幸・豊田久美子他：滋賀医科大学看護学科卒業生の動向－就業・進学状況とその意識を中心にして－，滋賀医科大学看護学ジャーナル，1，67-78，2003.
- 6) 杉浦浩子・中島美奈子・伊藤育子他：岐阜大学医学部看護学科卒業生の動向および勤務状況の実態，岐阜大学医学部紀要，56，1-8，2010.

表 1. 対象の背景

現職		全体 n=238	看護師 n=125	保健師 n=53	看護教員 n=10	助産師 n=5	その他 ¹⁾ n=8	無職 n=37	P値
平均年齢(歳) n=237 ²⁾		30.9	30.0	31.9	36.1	28.4	29.3	32.3	0.00 ⁶⁾
性別 n=238	女性	222(93.3)	113(90.4)	51(96.2)	9(90.0)	5(100)	8(100)	36(97.3)	0.49 ⁷⁾
	男性	16(6.7)	12(9.6)	2(3.8)	1(10.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(2.7)	
結婚 n=237 ³⁾	既婚	125(52.7)	55(44.0)	33(62.3)	1(10.0)	1(20.0)	3(37.5)	32(86.5)	0.00 ⁷⁾
	未婚	112(47.3)	69(55.2)	20(37.7)	9(90.0)	4(80.0)	5(62.5)	5(13.5)	
最終学歴 n=237 ⁴⁾	学士	217(91.2)	116(92.8)	51(96.2)	5(50.0)	5(100)	8(100)	32(86.5)	0.00 ⁷⁾
	博士/修士	21(8.8)	9(7.2)	2(3.8)	5(50.0)	0(0.0)	0(0.0)	5(13.5)	
職場の平均継続年数(年) n=236 ⁵⁾		4.5	4.5	6.1	2.6	4.1	1.8	3.5	0.00 ⁶⁾

注)看護師、保健師、看護教員として働きながら修士課程在学中3名、博士課程在学中2名含む。

1)看護教諭1名、専門学校就学中2名、介護士1名、医師事務作業補助1名、マッサージ師1名、無回答2名を含む

2)～4)無記名1名を除く237名 5)無記名2名を除く236名 6)Kruskal-Wallis 7)Cramer v

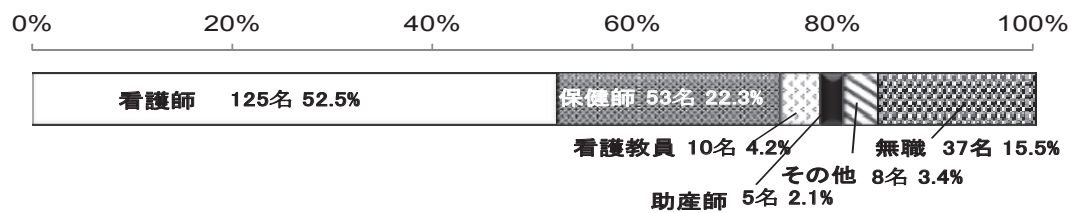


図 1. 現在の就業状況

表 2. 今後のキャリアアップについての現職ごとの考え

1) 看護師 99 データ		
看護師として働きたい(63)	【専門性をさらに高めたい】	・急性期病院で経験を積んで、何かの分野のスペシャリストになりたい。 ・心外・小児循環器の専門性をより高め、将来を見すえ、家族も含めた看護を提供したい。
	【今後も看護師として働きたい】	・仕事を続けていきたいという思いはあるが、進学や他職種への転換は考えていない。 ・今の職場でまだ働きたい。
	【看護師として働くが、キャリアアップについては悩んでいる】	・今の生活に合わせて、働く時間を長くしたり、機会があれば勉強したいと考えているが、まだ分からない。 ・3年看護師として働き、まだ勉強不足な面も多いと感じるため、臨床経験をまだ積んでいくか、進学するか、またはその他の道に進むか決めかねている。
	【個人の制約により困難な状況がある】	・志が高くないとできない。働きながらの学習、あるいは休職などのことも含めて考えていないといけないうので、自分には難しいことだと思う。 ・仕事と家庭の両立を考えると、進学してのキャリアアップは難しいと思う。
進学したい(14)	【専門職として働きたい】	・専門看護師の資格を将来取得したいと考えている。 ・今後仕事を続けていく上でモチベーションを保てるよう資格取得できたらと考えている。
	【管理職として働きたい】	・管理職として活躍したい。・今後管理職として仕事を続けていく上で大学院を修了していることは重要となってくると思うため。
	【知識の限界を感じるため】	・一般のスタッフ看護師としての限界を感じる。自分自身がまったくもって勉強不足である。
	【進学したいが悩んでいる】	・研究の大変さと卒業後再就職できるかどうか不安があり、なかなか実行に移せない。
保健師として働きたい(12)	【保健師の仕事に興味・関心がある】	・もともと保健師に興味があったが、看護師として臨床経験を積み、勉強してからにしようと考えていた。・地域看護に興味がある。
	【家庭・育児・生活との兼ね合いを考えて】	・子どもがいるため、夜勤をすることに躊躇する。 ・規則正しい生活がしたい。・長く働ける環境が良い。
その他(10)	【個人の制約により、キャリアアップについて考えていない】	・家庭・子育てとの両立が困難だから。 ・今は病棟勤務で精一杯だから。・今のところ興味のある分野がないから。
2) 保健師 40 データ		
保健師として働きたい(32)	【今後も保健師として働きたい】	・地域での保健活動をより充実していけるよう、今後も継続して働きたい。 ・現在の保健師の仕事を続けたいと思っている。 ・行政職としての保健師業務を全うしたいと考えている。
	【専門性をさらに高めたい】	・保健師としての経験をもっと積んで技術を磨いていきたい。
	【保健師として昇進を目指している】	・県の保健師として働き、昇格したい。 ・係長試験を受ける。
進学したい(8)	【専門分野を追求したい】	・自分がこれまで一番興味を持った分野について学びを深め、現在働いている人の一助になりたい。
	【スキルアップするため】	・一通りの業務経験をした後、もう一度勉強できる環境に身を置いてみたい。 ・学ぶ力を身につけたい。高めたい。
	【助産師として働きたい】	・自分が妊娠・出産をし、生命の誕生に関わる職につきたいと思ったため。 ・周産期のケアに興味があるから。
3) 看護教員 8 データ		
進学したい(6)	【専門分野を追求したい】	・看護学について、専門分野で特に学びたいと思った。
	【教員としての能力を向上させたい】	・教員・研究を行うためには未熟であるため、さらに学びを深めたい。
看護教員として働きたい(1)	【看護教員としてまずは目の前のことを遂行していく】	・現在博士課程で研究に取り組んでいるため、まずは精一杯やるのみ。
その他(1)	【具体的に考えていない】	・具体的にイメージできていない。
4) 助産師 5 データ		
助産師として働きたい(4)	【職場を変更して助産師として働きたい】	・独立したい。
その他(1)	【具体的に考えていない】	・やりたいことがはっきりしていない。
5) その他・無職 39 データ		
保健師として働きたい(7)	【保健師として働くことに興味・関心がある】	・以前からやりたかった保健師として、働きたいずっと思っている。 ・保健師職が好きだから。
	【看護師業務は身体的影響がある】	・看護師は夜勤が身体に負担がかかる。
進学したい(4)	【研究に組み込みたい】	・研究がしたい。・実践と研究と両方取り組みたい。
	【助産師の資格を取得したい】	・国際協力するには助産師資格があったほうが強い。
看護師として働きたい(2)	【看護師としての資格・経験を活かして働きたい】	・資格・経験を活かせるように、できるだけ早く実践の場に戻りたい。
今は考えていない(26)	【キャリアアップをこれから考える】	・子育てが一段落する頃に働いたり、学習をしたりすることを考える。 ・チャンスがあれば進学したい。
	【家庭・育児を優先したい】	・しばらく主婦業(母親)に専念したい。 ・現時点でキャリアアップの志が無く、育児を優先したい。
	【病気のため考えられない】	・病気療養中のため考えるに至らない。 ・主治医に禁止されているため考えていない。